

2020年3月期（2019年度） 決算説明会

ウシオ電機株式会社
2020年5月13日

<免責事項>本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

Copyright(C) 2008 Ushio Inc., All Rights reserved

未来は光でおもしろくなる

USHIO



➤ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大による影響について

➤ 2019年度 実績：

前年同期比 **減収減益決算**、**期初計画値未達** の理由について

➤ 2020年度 通期業績予想 及び 新中期経営計画：

公表延期について

- I. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大による影響
- II. 2019年度 通期業績概況
- III. 2020年度 通期業績予想 及び 新中期経営計画
- IV. トピックス
- V. 参考資料

当社グループの取組み状況

感染拡大防止と事業継続の体制維持の観点から、取引先や従業員等の健康・安全確保のための取組みを実施

■ 国内

- ✓ 製造部門以外は、業務上必要人員を除き、原則在宅勤務
 - ✓ 製造部門は、感染防止策を実施し、通常の生産体制維持
 - ✓ 不要不急の国内外出張の原則禁止、大規模な会議／セミナーの実施及び参加自粛
 - ✓ 社内外での打ち合わせにおけるテレビ会議及び電話会議の積極的な活用
- ⇒ 国内の感染者は確認されていない。

■ 海外

- ✓ 各国政府等の方針に基づき、健康・安全を第一義とした対応実施（在宅勤務など）
 - ✓ 国内外の移動回避
- ⇒ 海外グループ会社で少数の感染者が出ているものの、適切に対応し、感染拡大や事業活動への影響はない。

引き続き、従業員およびその家族の健康維持・安全確保を最優先とする対策を実施

詳しくは、当社ホームページをご覧ください。

<https://www.ushio.co.jp/jp/news/1001/2020-2020/500621.html>



当社グループの拠点等の状況（サマリー）

（注）2020年5月13現在の情報記載

- ✓ 生産状況は、ウシオフィリピンで一部製造ラインの停止はあるものの、その他の生産は、ほぼ通常生産体制を維持し、製品供給に大きな問題は生じていない。
- ✓ 製造部門以外は、各国政府及び地方自治体の指導や地域の状況に応じて、在宅勤務等を実施。
- ✓ 主要製造部品の調達の遅れや供給不足による自社製造面への影響は現時点でほとんど発生していない。

主な国内拠点の稼働状況

	拠点	状況
製造部門	ウシオ電機（播磨・御殿場・京都） ウシオライティング（福崎） アドテックエンジニアリング（長岡）	感染防止策を実施しつつ、 通常生産体制維持
営業・管理・ 研究部門	ウシオ電機（東京・横浜・川崎他） ウシオライティング（東京・大阪他） アドテックエンジニアリング（東京他）	業務上必要な人員を除き、 原則在宅勤務

(注) 2020年5月13現在の情報記載

主な海外拠点の稼働状況

地域他	状況
欧米 (米国、オランダ、ドイツ、ポーランド他)	製造部門：適切な予防策を実施しつつ、 通常業務体制維持 上記以外： 原則在宅勤務
中国	生産：春節以降一時的に稼働率低下も、3月以降は ほぼ通常稼働まで回復
中国以外のアジア諸国	ウシオフィリピン： 製造ラインの一部停止 （他工場にて製品供給補完） 上記以外：各国法令に基づき 在宅勤務 や 時差出勤実施
クリスティー・デジタル・システムズ (米国、カナダ、中国)	製造部門： 深圳工場(中国)：1月中旬から約1か月の稼働停止も、 通常稼働まで回復 キッチンナー工場(カナダ)： 約3割程度の稼働率 上記以外： カリフォルニア本社 => 出勤日調整し対応 カナダ（キッチンナー） => ほぼ通常勤務

分野別の影響

（注）2020年5月13現在の情報記載

ビジュアルイメージング分野

- ✓ 世界各地の外出制限等により、ほぼ全世界の映画館が休業の状態にあり、映画配給も上映中止や公開延期。一部の国や地域で経済活動再開の動きが始まるも、本格再開までは時間がかかる見込み。
- ✓ 世界各地でイベントの中止や延期、およびアミューズメントパークなど商業施設の臨時休業が相次ぐ。再開の目途は各国の方針に委ねられており、現時点で不透明な状況。

これらの影響により、主にシネマプロジェクター用クセノンランプや映像装置の販売に大きな影響。

エレクトロニクス分野

- ✓ 中国中心にFPDメーカー及びプリント基板メーカーの稼働低下及び一時工場停止の影響により、一部当社製品の納入が中止や延期。
- ✓ 各国の入国・移動制限により、一部の光学装置で納入・立ち上げ・検収作業遅れが発生。

これらの影響により、主に露光用UVランプや光学装置の販売に影響。

（注）2020年5月13現在の情報記載

2019年度の業績影響

売上高： 約▲100億円、 営業利益： 約▲30億円

■セグメント別業績影響

光源事業：売上高 約▲30億円

全世界的な映画館の休業によりシネマプロジェクター用クセノンランプのリプレイス需要減少。また中国のF P Dで一時稼働低下によるUVランプのリプレイス需要減少、及びプロジェクタ・OA用途でも需要が減少。

装置事業_映像装置：売上高 約▲45億円

シネマ分野では全世界的な映画館の休業の影響によりシネマ用プロジェクターの納入が後ろ倒し。一般映像分野では、イベントの中止や延期、アミューズメントパークなどの商業施設の臨時休業 及び 各国の入国・移動制限などにより各種映像装置の納入が後ろ倒し及びレンタル案件がキャンセル。

装置事業_光学装置：売上高 約▲25億円

プリント基板メーカーの稼働低下や一時工場停止による直描式露光装置（UV装置）の販売が後倒し。一部光学装置における検収作業の遅れによる売上計上の遅れ。

（注）2020年5月13現在の情報記載

2020年度の業績影響（見込み）

ビジュアルイメージング分野

- ✓ 世界各地の映画館休業やイベント自粛及びアミューズメントパークなどの商業施設の臨時休業が継続。再開見通しは不透明。シネマプロジェクター用クセノンランプや映像装置の業績影響継続が懸念。
- ✓ 各映像関連施設の休業状態が長期化した場合、取引先の経営状態によっては当社売掛債権回収への懸念。また、映像装置関連製品への投資意欲減退による販売等への影響懸念。

エレクトロニクス分野

- 第5世代移動通信システム（5G）実用化 や IoT・AIの活用進展による需要の拡大の動きと、半導体・FPD及びプリント基板の稼働は戻りつつも、
- ✓ 最終製品消費低迷によるランプリプレイス需要減少懸念。
 - ✓ 各国の入国・移動制限継続により、装置据え付け及び立上げ作業の遅れや商談遅れなどにより、検収作業（売上計上）が遅れる懸念。

その他

- ✓ 世界的な外出制限による最終製品の消費・稼働低迷により当社製品販売への影響懸念。
- ✓ 今回の新型コロナウイルスのようなパンデミックの起こらない社会の実現、及び医療崩壊を防ぐ一助となるべく、222nmの紫外線殺菌・ウイルス不活化ユニットの量産化体制を加速。

-
- I. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大による影響
 - II. 2019年度 通期業績概況**
 - III. 2020年度 通期業績予想 及び 新中期経営計画
 - IV. トピックス
 - V. 参考資料

売上高 : 1,590億円 (前年同期比▲61億円、▲3.7%)

対通期公表値 達成率 対期初計画 : 93.5%、対3.27修正公表 : 102.6%

減収 : 【光源】 関連市況の低迷 及び 固体光源化によるランプ需要減
新型コロナにより主にシネマ用ランプ販売が減少

営業利益 : 66億円 (前年同期比▲18億円、▲21.8%)

対通期公表値 達成率 対期初計画 : 66.6%、対3.27修正公表 : 111.0%

減益 : 【光源】 減収に伴い減益

親会社株主に帰属する

当期純利益 : 89億円 (前年同期比▲23億円、▲20.8%)

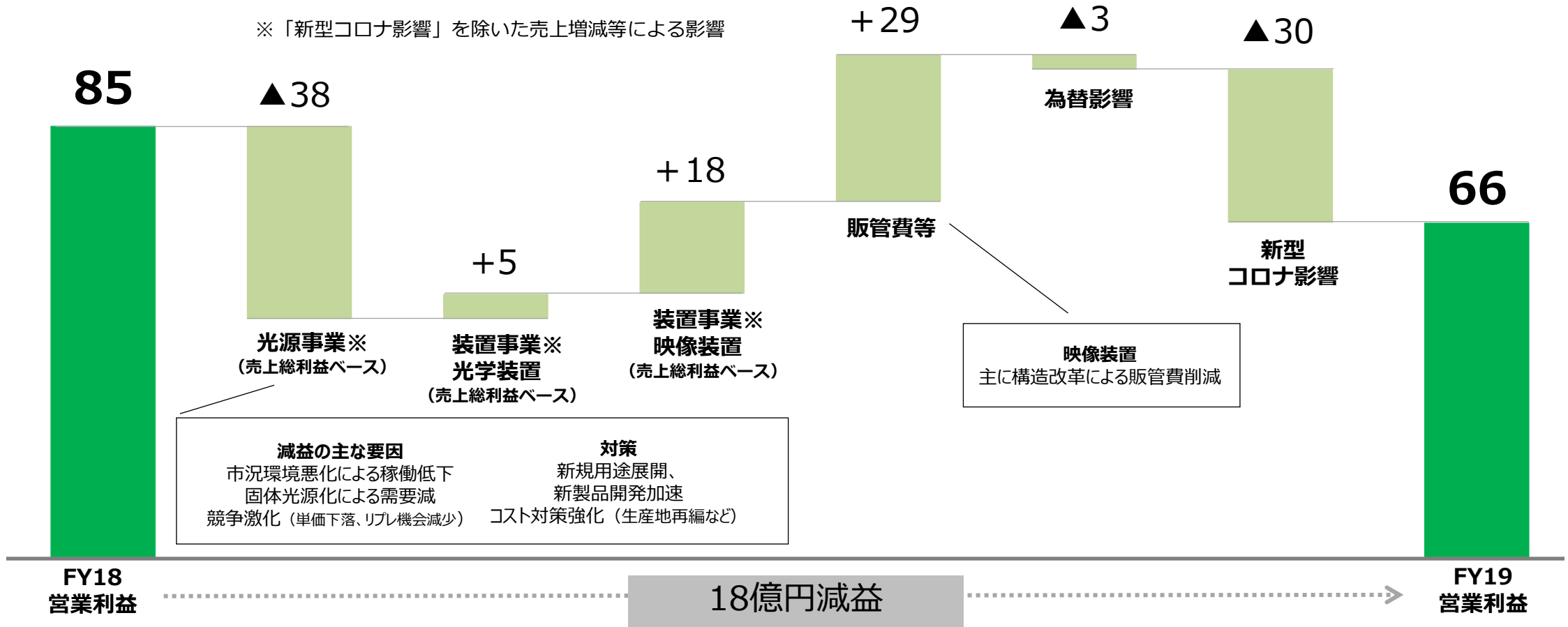
対通期公表値 達成率 対期初計画 : 78.0%、対3.27修正公表 : 128.1%

※為替平均レート (FY19) : 1USドル= 109円

単位：億円		FY18	FY19	前年同期比	
				増減	%
売上高		1,651	1,590	▲61	▲3.7
営業利益		85	66	▲18	▲21.8
営業利益率(%)		5.2	4.2	▲1.0P	—
経常利益		114	87	▲27	▲23.6
親会社株主に帰属する 当期純利益		113	89	▲23	▲20.8
EPS (円)		88.85	73.25	▲15.60	▲17.6
ROE (%)		5.3	4.3	▲1.0	—
1株当たり配当額 (円)		50	26	▲24	—
配当性向 (%)		56.3	35.5	▲20.8	—
為替レート (円)	USD	111	109	▲2	—
	EUR	129	121	▲8	—

前年同期比 営業利益増減分析

単位：億円



注：「光源事業 (売上総利益ベース)」～「販管費等」の要因は、「為替影響」を除いた金額。

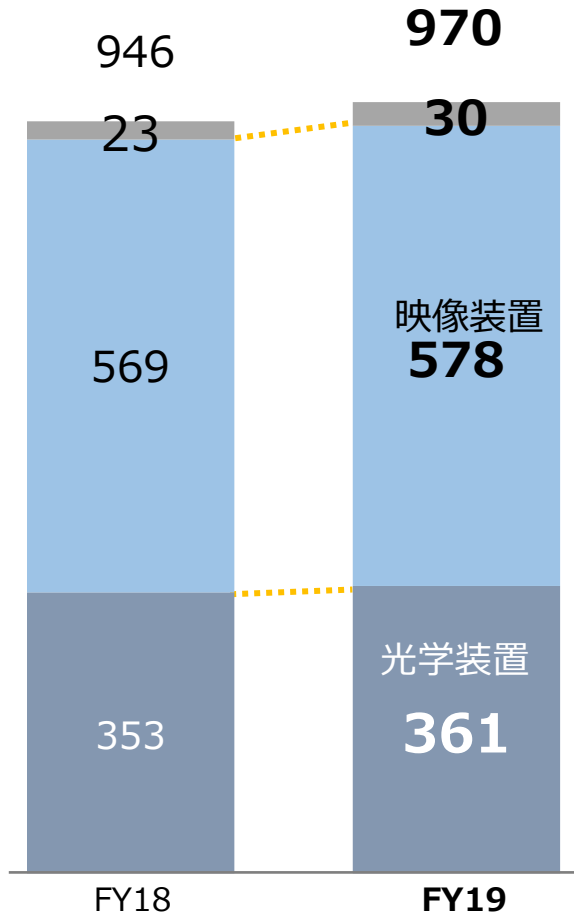
セグメント別 売上高、営業利益、営業利益率

単位：億円		FY18	FY19	前年同期比	
				増減	%
装置事業	売上高	946	970	+24	+2.5
	営業利益	▲3	3	+6	-
	営業利益率 (%)	▲0.3	0.3	+0.6P	-
光源事業	売上高	671	585	▲85	▲12.8
	営業利益	83	60	▲23	▲27.6
	営業利益率 (%)	12.5	10.3	▲2.1P	-
その他	売上高	33	33	+0	+1.8
	営業利益	1	0	▲0	▲69.6
	営業利益率 (%)	3.0	0.9	▲2.1P	-
全社・消去	営業利益	3	2	▲0	▲28.2

セグメント別売上高 概況

■ 装置事業

(億円)



前年同期比

+24億円
(+2.5%)

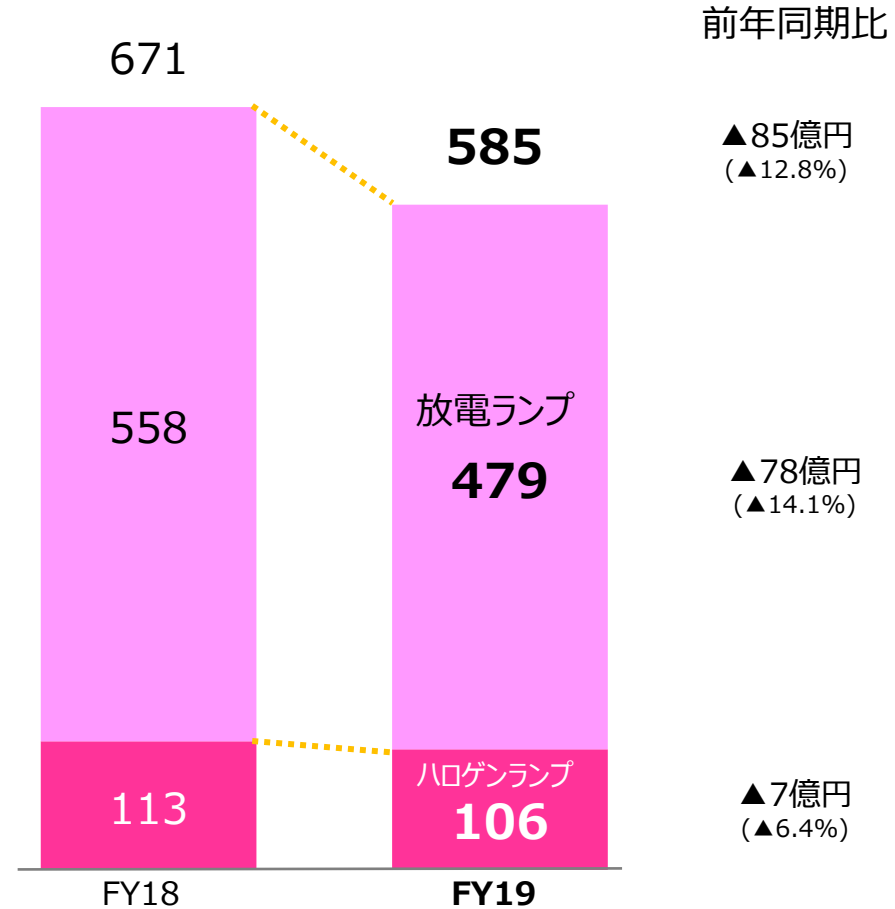
+7億円
(+29.8%)

+8億円
(+1.5%)

+8億円
(+2.5%)

■ 光源事業

(億円)



前年同期比

▲85億円
(▲12.8%)

▲78億円
(▲14.1%)

▲7億円
(▲6.4%)

注：売上高は、外部顧客への売上高を記載

注：売上高は、外部顧客への売上高を記載

エレクトロニクス分野

<p>事業環境</p>	<p>半導体、FPD及びプリント基板など関連市場の稼働及び投資は総じて低調</p> <ul style="list-style-type: none"> － 中国で大型液晶パネル向けに設備投資、今後の投資の主体は液晶からOLEDに移行 － パネル供給過剰により韓国などでパネル生産の稼働が低調 － スマートフォン販売不振により関連市場は低迷 － 4 Q以降、新型コロナウイルス感染症拡大によりプリント基板及びFPDの稼働に影響 	
<p>装置事業</p>	<p>光_UV装置 ▲4億円 ▲2%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置が増加 ・ スマホ需要減少及び新型コロナ影響などにより直描式露光装置の販売が減少
	<p>光_キユア装置 ▲2億円 ▲3%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上期に中国大型液晶パネル向け販売増も、下期低迷し、液晶関連装置の販売微減
	<p>光_その他 +15億円 +19%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ E U Vリソグラフィマスク検査用 E U V 光源の販売増加
<p>光源事業</p>	<p>放_UVランプ ▲22億円 ▲16%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 液晶パネルの生産調整によりリプレイス需要が減少 ・ パネル供給過剰によるパネル価格下落により単価が下落

注：記載の金額は、「売上高」の前年同期比増減額及び率

ビジュアルイメージング分野

<p>事業環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> 映画館新設数は鈍化傾向も、今後は映画館におけるプロジェクター更新需要が徐々に増加 シネマ、一般映像ともに固体光源プロジェクターの採用が拡大 ハイエンドの映像機器需要は、エンターテインメント市場を中心に安定的に推移 4 Q以降、新型コロナウイルス感染症拡大影響によりシネマ及び一般映像の需要に大きく影響 	
<p>装置事業</p>	<p>映_シネマ +35億円 +13%</p>	<ul style="list-style-type: none"> RGBレーザープロジェクターの販売拡大 収益性は想定以下で推移
	<p>映_一般映像 ▲27億円 ▲9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> RGBレーザープロジェクターの販売拡大も 新型コロナによりイベント案件の延期、キャンセルの発生により需要減少
<p>光源事業</p>	<p>放_シネマ用ランプ ▲33億円 ▲22%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 固体光源化により需要減 及び 競争激化により単価下落 新型コロナにより全世界的な映画館の休業からリプレ需要が減少
	<p>放_データ プロジェクター用ランプ ▲16億円 ▲22%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 固体光源化加速により、ランプ需要が減少
	<p>ハ_OA用ランプ ▲1億円 ▲2%</p>	<ul style="list-style-type: none"> O A 機器需要は鈍化も、高付加価値な環境対応ランプ販売が増加

通期公表値差異

単位：億円		FY19 実績	通期公表値		差異		達成率 (%)	
			期初計画	3.27修正	対期初計画	対3.27修正	対期初計画	対3.27修正
売上高		1,590	1,700	1,550	▲109	+40	93.5	102.6
営業利益		66	100	60	▲33	+6	66.6	111.0
営業利益率 (%)		4.2	5.9	3.9	▲1.7P	+0.3P	-	-
経常利益		87	120	75	▲32	+12	72.8	116.5
親会社株主に帰属する 当期純利益		89	115	70	▲25	+19	78.0	128.1
EPS (円)		73.25	94.17	57.17	▲20.9	+16.1	77.8	128.1
設備投資額		82	85	-	▲2	-	97.3	-
減価償却費		71	67	-	+4	-	107.2	-
研究開発費		101	115	-	▲13	-	88.5	-
為替レート (円)	USD	109	110	-	▲1	-	-	-
	EUR	121	125	-	▲4	-	-	-

通期公表値差異 サブセグメント別売上高 計画値・実績比較

単位：億円			FY18 実績	FY19 実績	通期 期初計画	期初計画 差異	達成率 (%)
売上高	装置 事業	映像装置	569	578	590	▲11	98.0
		光学装置	353	361	400	▲38	90.5
		照明装置他	23	30	20	+10	152.5
		小計	946	970	1,010	▲39	96.1
	光源 事業	放電ランプ	558	479	540	▲60	88.8
		ハロゲンランプ	113	106	115	▲8	92.6
		小計	671	585	655	▲69	89.5
	その他	産業機械他	33	33	35	▲1	96.1
	合計		1,651	1,590	1,700	▲109	93.5
	営業利益		85	66	100	▲33	66.6

-
- I. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大による影響
 - II. 2019年度 通期業績概況
 - III. 2020年度 通期業績予想 及び 新中期経営計画**
 - IV. トピックス
 - V. 参考資料

次期通期業績予想 及び 新中期経営計画の**公表を延期** します。

➤ 次期（2020年度）通期業績予想

当社グループ各社における新型コロナウイルス感染拡大による事業活動への影響度合いの状況確認が進み、適正かつ合理的な算出が可能になった段階で、速やかに開示いたします。

➤ 新中期経営計画（2020～2022年度）

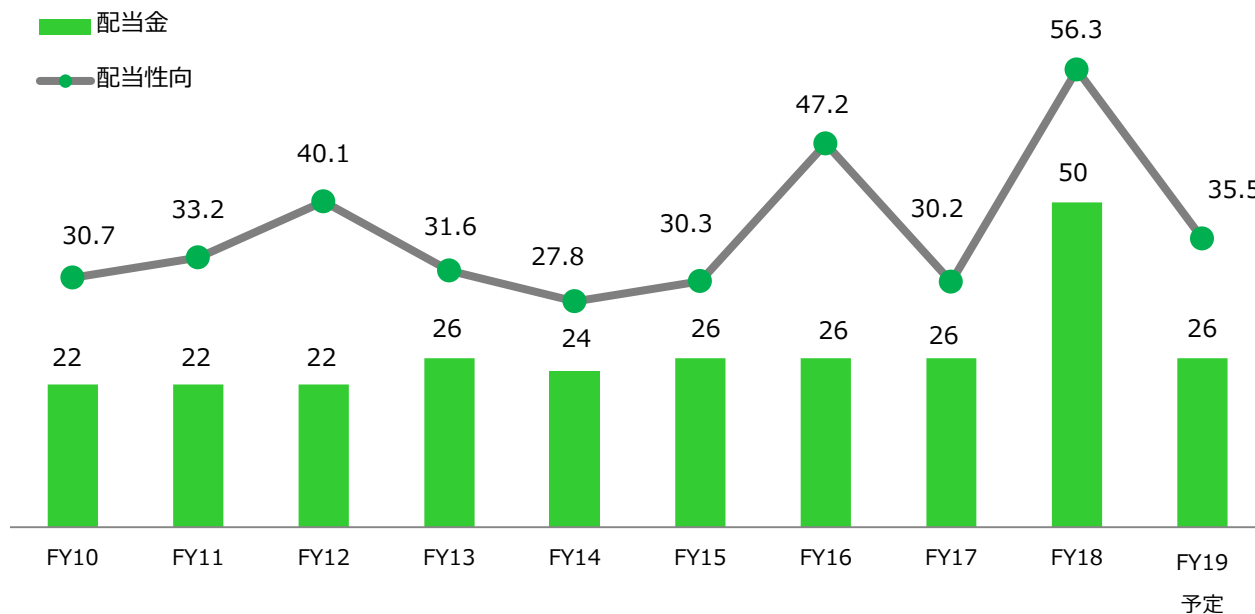
上記 2020年度の通期業績予想の確認が取れ次第、速やかに公表いたします。

-
- I. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大による影響
 - II. 2019年度 通期業績概況
 - III. 2020年度 通期業績予想 及び 新中期経営計画
 - IV. トピックス**
 - V. 参考資料

1株当たり配当額 及び 配当性向

新型コロナウイルス感染症拡大による業績影響及び不透明な事業環境継続により、2019年度の配当額は期初計画値より24円減の1株当たり「26円」予定。2020年度（次期）の配当額は「未定」。

FY19（予定）： 26円（35.5%）
FY20（計画）： 未定



自社株買い

2018年12月20日公表の自社株買い

上限100億円

(800万株)

2018年12月21日～2019年12月20日

取得終了

(2019年12月10日)

買付金額： 100億円

買付株式数： 722万株

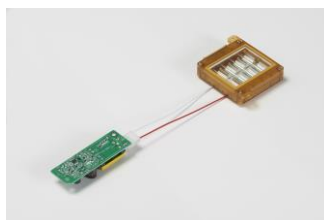
自己株式消却

2020年2月21日付で6,628,721株の消却済み
(消却後における自己株式の発行済株式総数割合： 4.8%)

自己株式の取得は機動的に実施。保有する自己株式の上限は、発行済株式総数の5%を目途とし、その部分を上回る自己株式については毎年消却。

USHIO Care 222

222nmの紫外波長により
人や動物の皮膚や目に安全でありながら、
紫外線本来の殺菌、ウイルスの不活化を可能とする
新しい環境衛生ソリューション



モジュールタイプ



ユニットタイプ (デモ機)

●ウシオの強み

人体に無害な紫外線殺菌法の独占ライセンス保有
(コロンビア大学)

+

液晶・半導体業界で培った
高品質のエキシマランプ・モジュール製造技術

目指している貢献

パンデミックが起こらない安心・安全な環境の実現

(今回の新型コロナウイルスの感染拡大については医療崩壊を防ぐ一助に)

- 短期：2021年頃を目標
消毒・感染源除去による公衆空間の衛生度の向上
=> 例：病院の診察室・待合室・トイレ、介護施設、新幹線や飛行機・空港等
- 長期：2025年頃を目標
薬剤耐性菌（ウイルス以外）による院内感染防止 => 手術室消毒、手術部殺菌など（医療機器）

現在の進捗・今後の課題

- 量産化に向けたアクションの実施
 - ✓国内各研究機関へのデモ機の提供
 - ✓ランプは完成、モジュールは試作段階、使用環境に合わせた仕様検討
 - ✓量産に向けた設備投資及び実験・各種データの収集を継続
- 【今後の課題】
- 短期：安全性担保のための実証実験の蓄積及び使用方法に対する対応
=> 大学と実証試験結果の蓄積を加速
- 長期：薬機法等の認可取得 => 加速させるための活動を開始

●ウシオのCare222の特徴

<紫外線共通の特長>・・・従来の殺菌灯は254nmの水銀灯が主流

- 1. ノロウイルスや芽胞菌等アルコールや薬剤が効き難い菌の殺菌も可能
- 2. 耐性菌を作らない
- 3. 非接触・ノンケミカルであり、簡便な殺菌が可能



<従来の殺菌用途紫外線にはないCare222nmの特長>

- 1. 有人環境下での連続照射が可能・・・人の皮膚や目に悪影響を及ぼさない紫外線波長
- 2. 水銀不使用により環境負荷低減・・・水銀を含有しないエキシマ発光による紫外線ランプを使用

●ウシオのCare222開発の歩み

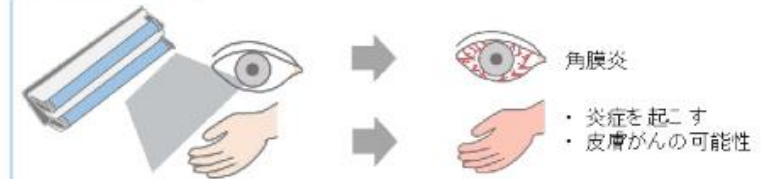
- 1992年 ウシオが世界に先駆けてエキシマランプの製品化
- 2015年 人体に無害な紫外線殺菌法の独占ライセンス契約及び研究委託契約をコロンビア大学と締結
- 2018年 世界初、神戸大学とウシオ電機が人体正常皮膚への222nm紫外線直接照射で障害なく常在菌の殺菌に成功
- 2020年 皮膚がんなどの発症なし 222nm紫外線 (UV-C) 繰り返し照射の安全性を世界で初めて実証

※新型コロナウイルスについて

現在、新型コロナウイルスへの不活化効果を確認する実証実験を米国で開始している。

人体に安全な殺菌灯の開発

【従来の殺菌灯】 生体への有害な作用 人体への使用は禁止されている



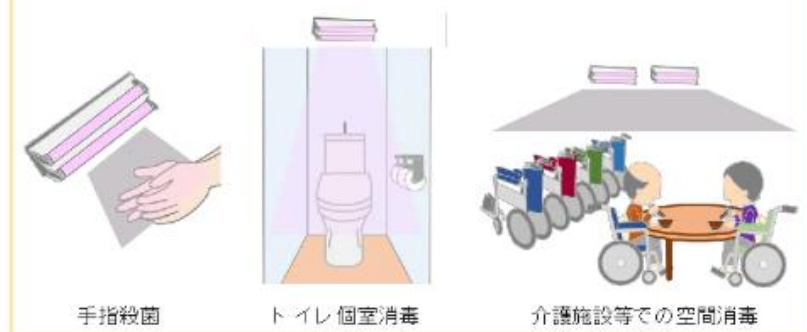
【今回開発された殺菌、ウイルス不活化光源】 従来と同等の殺菌力を持つ

通常より約1万倍紫外線由来の皮膚がんが
できやすいマウス（Xpa-KOマウス）に、
殺菌に必要な線量を持続照射



皮膚がんは全く形成されず、眼にも影響はなかった ⇒人体への安全性を証明した

【今後の応用】 医療分野から日常生活まで広い範囲で使用・応用が可能



-
- I. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大による影響
 - II. 2019年度 通期業績概況
 - III. 2020年度 通期業績予想 及び 新中期経営計画
 - IV. トピックス
 - V. 参考資料**

USHIO

分割投影露光装置 (UX-5) 製造、販売

装置
販売

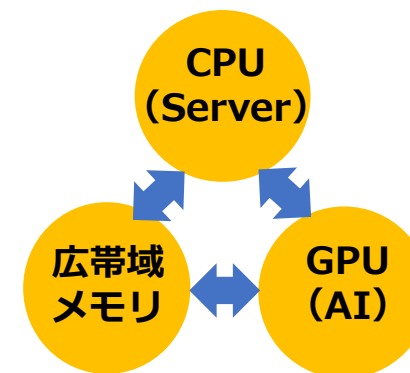
最先端・次世代パッケージ
の需要拡大

パッケージ基板メーカー

チップ実装
サーバー搭載

IoT進展に伴う大容量かつ高速データ処理
用データセンター向けサーバーの需要増加

データセンター市場
年率20%以上成長 (自社調べ)
⇒ 次世代パッケージ基板の採用拡大



● 投影露光装置の生産能力を増強
(従来比2倍)



● 世界シェア95% ハイエンドBGA基板露光市場 (自社調べ)

● UX-5の強み (特長)

1. 大面積一括投影露光
→ 高生産性、低CoO
2. マスクワーク非接触
→ 歩留まり向上
3. 広い焦点深度
→ プロセスマージン・基板反り対応
4. 高い解像力・重ね合わせ精度
→ 配線ピッチ微細化・プロセスマージン

分割投影露光装置 (UX-5)
販売動向

FY19
下期より売上計上

FY20以降
販売台数拡大



USHIO

次世代半導体量産用EUV光源
開発、生産、販売

光源販売
メンテナンス

マスク検査装置メーカー
研究開発機関

半導体デバイスメーカー等



EUVリソグラフィの技術開発進展による次世代半導体の量産化ニーズ

検査、開発用光源のニーズ増大

ウシオのEUV光源が貢献

マスク検査用EUV光源需要増加
メンテナンス機会の増加

●ウシオのEUV光源開発の歴史

- 2000年 EUV光源開発開始
- 2001年 EUVA*設立、参画
*極端紫外線露光システム開発機構
- 2013年 リソグラフィ用途から撤退
- 2016年 オランダ研究機関TNOへEUV光源納入
- 2018年 検査用（評価用）初号機納入
- 2019年 量産ライン用初号機納入、検収

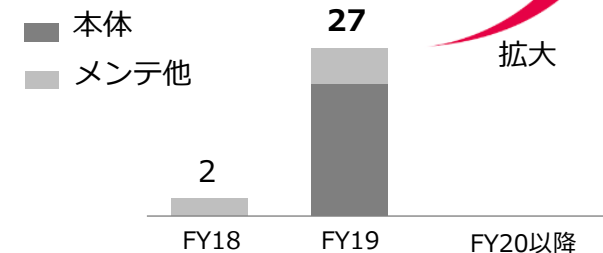
●ウシオの強み

半導体業界での長いビジネス経験

+

長年積み重ねたEUV技術
(コンパクト/高輝度/高出力)

●売上高推移（億円）



光源	レーザー		ランプ	
	RGBレーザー	蛍光体レーザー	クセノンランプ	超高圧水銀ランプ
シネマ	 <p>CP4450-RGB CP4440-RGB CP4330-RGB CP2320-RGB他 明るさ(lm) <50,000</p>	<p>ラインナップなし</p>	 <p>CP2308 他 明るさ(lm) <45,000</p>	<p>ラインナップなし</p>
一般映像	 <p>D4K40-RGB他 明るさ(lm) <40,000</p>	 <p>Crimson GS シリーズ他 明るさ(lm) <30,000</p>	 <p>Roadie 他 明るさ(lm) <45,000</p>	 <p>Boxer 他 明るさ(lm) <30,000</p>
本体価格	★★★★★	★★	★★	★
本体寿命	★★★★★	★★★★	★★★★★ (ランプ交換を実施した場合)	★★★★★ (ランプ交換を実施した場合)
色	★★★★★	★★	★★★	★★

構造改革による収益性改善

FY18(通期)

- 中国生産移管による固定費削減
- 不採算事業の整理

FY19(通期)

- 拠点整理による固定費削減
- 生産性向上
- 販管費率維持の徹底

施策

- 中国生産移管は計画通り進捗
- 不採算事業の整理完了
- 人員削減・拠点統廃合の実施

販売管理費 (対FY18_4Q) → **約3割削減**
 人員推移 (FY17-FY19) → **約2割減**

実績

新製品による売上増加

シネマ

- 仕様未達解消
- RGBプロジェクターのフルラインナップ



あらゆるスクリーンサイズに対応できるRGBレーザープロジェクターのラインナップ

一般映像

- レーザープロジェクターのラインナップ拡充 (RGB, LaPH)



• 業界初*コンパクトなRGBレーザープロジェクターをリリース
 • 高輝度LaPHモデル追加

*自社調べ

主なRGB受注状況

HuaxiaFilm : 200台
 Cineworld : 1,000台
 Cinema21 : 100台 他

弊社DCP販売台数に占めるRGB割合

FY19_4Q : 約**4割** (前年同期 : 約1割)

主なRGB受注状況

ドバイ国際博覧会 : 250台 他

弊社一般映像プロジェクター販売台数に占めるRGB+LaPH割合

FY19_4Q : 約**9割** (前年同期 : 約5割)

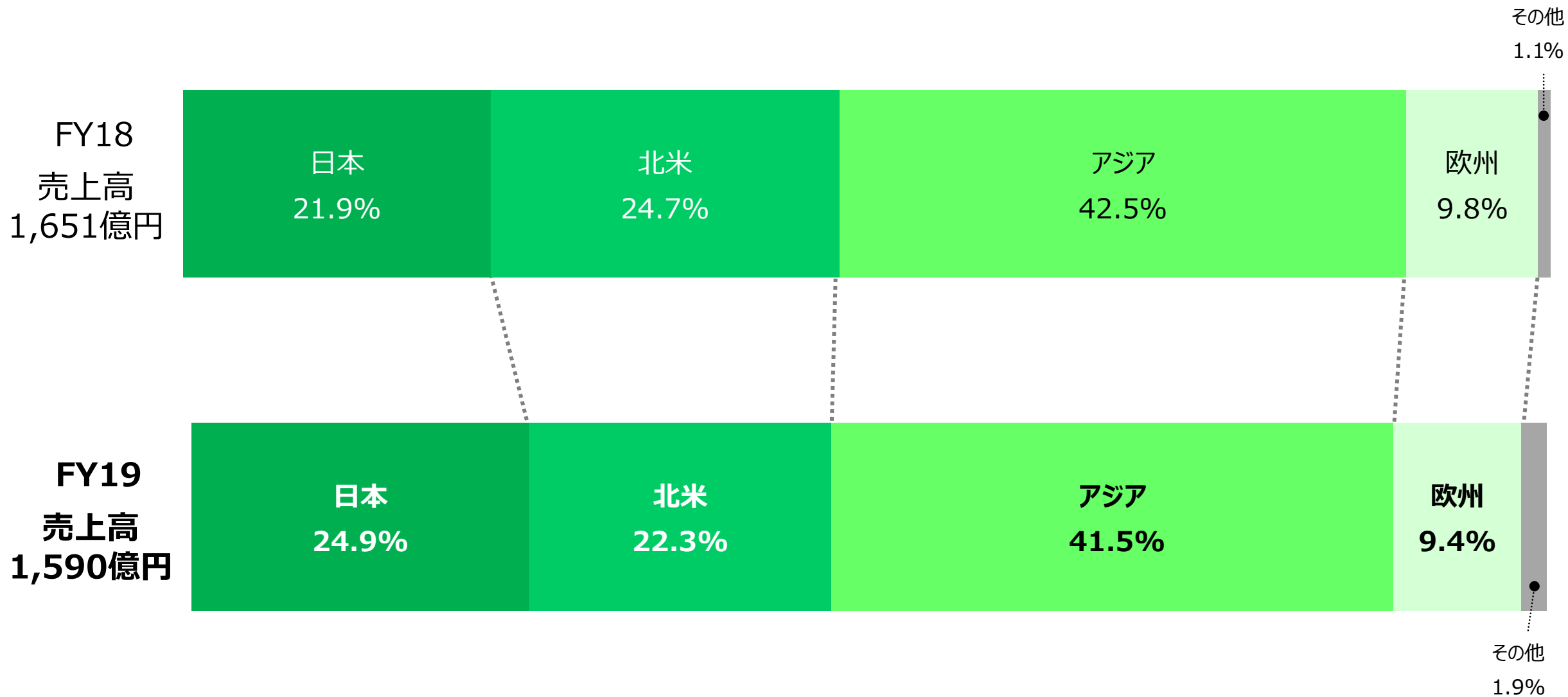
四半期推移《損益》

単位：億円		FY18				FY19				FY19 4Q - FY18 4Q		FY19 4Q - FY19 3Q	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	増減	%	増減	%
売上高		399	426	397	427	389	430	380	389	▲37	▲8.9	+8	+2.3
営業利益		25	28	15	16	21	27	14	3	▲12	▲80.7	▲11	▲79.1
営業利益 (%)		6.4	6.6	3.9	3.8	5.5	6.3	3.9	0.8	▲3.0P	-	▲3.1P	-
経常利益		39	32	22	19	29	28	25	3	▲16	▲83.4	▲22	▲87.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益		22	12	21	56	12	17	57	1	▲55	▲97.4	▲56	▲97.5
EPS (円)		17.67	9.79	16.97	44.54	10.02	14.43	47.87	1.22	▲43.32	▲97.3	▲46.65	▲97.5
為替レート (円)	USD	108	111	113	110	111	108	109	109	▲1	-	+0	-
	EUR	130	129	130	126	124	120	120	121	▲5	-	+1	-

四半期推移《セグメント別損益》

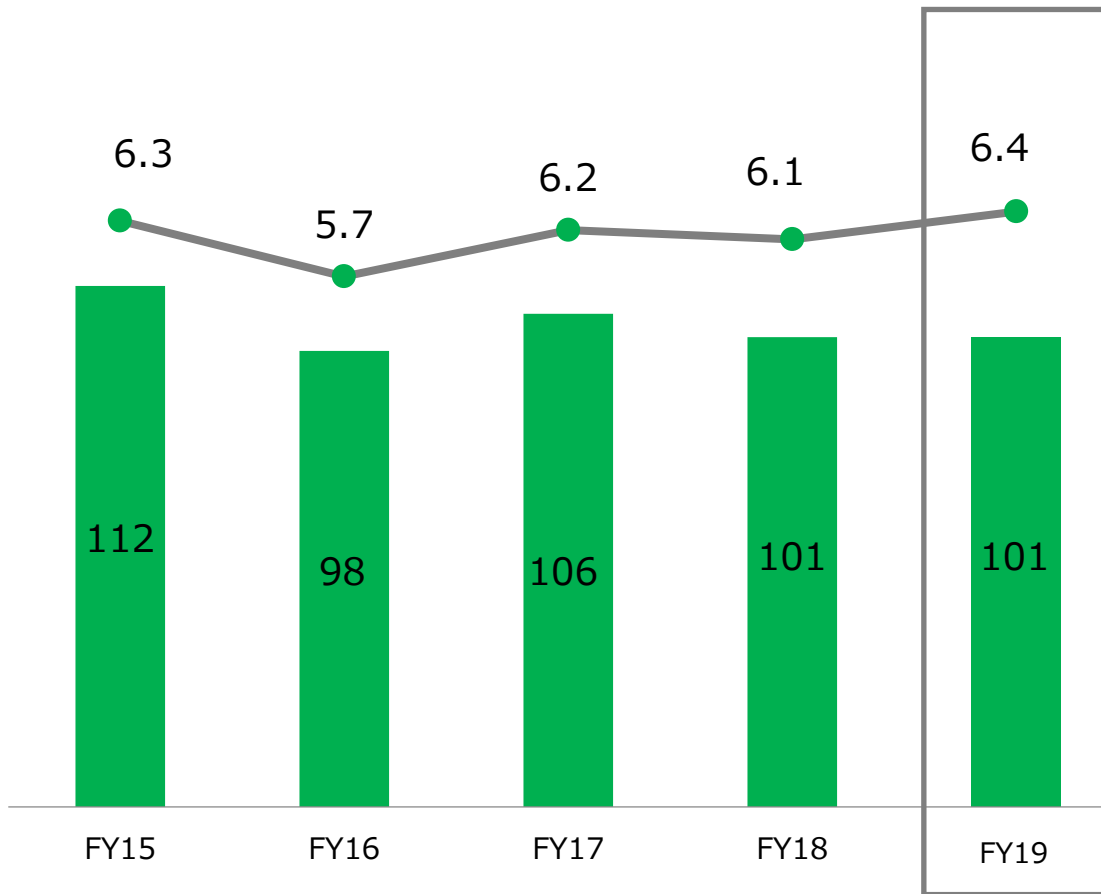
単位：億円	FY18				FY19				FY19 4Q - FY18 4Q		FY19 4Q - FY19 3Q	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	増減	%	増減	%
装置事業												
売上高	218	248	219	260	227	271	229	242	▲17	▲6.7	+13	+5.8
営業利益	0	1	▲4	▲0	0	9	4	▲11	▲11	-	▲15	-
営業利益率 (%)	0.0	0.7	▲2.1	▲0.1	0.4	3.5	1.8	▲4.6	▲4.6P	-	▲6.4P	-
光源事業												
売上高	173	172	171	155	154	149	143	137	▲17	▲11.5	▲6	▲4.3
営業利益	25	23	18	16	19	16	10	13	▲2	▲15.7	+3	+33.3
営業利益率 (%)	14.8	13.4	10.8	10.6	12.5	11.2	7.3	10.1	▲0.5P	-	+2.9P	-
その他												
売上高	7	6	7	11	7	9	7	9	▲2	▲21.8	+1	+25.5
営業利益	0	0	0	0	0	▲0	0	▲0	▲0	▲145.6	▲0	▲151.4
営業利益率 (%)	3.0	3.6	3.6	2.4	2.5	▲0.0	3.5	▲1.4	▲3.9P	-	▲4.9P	-

地域別売上高比率

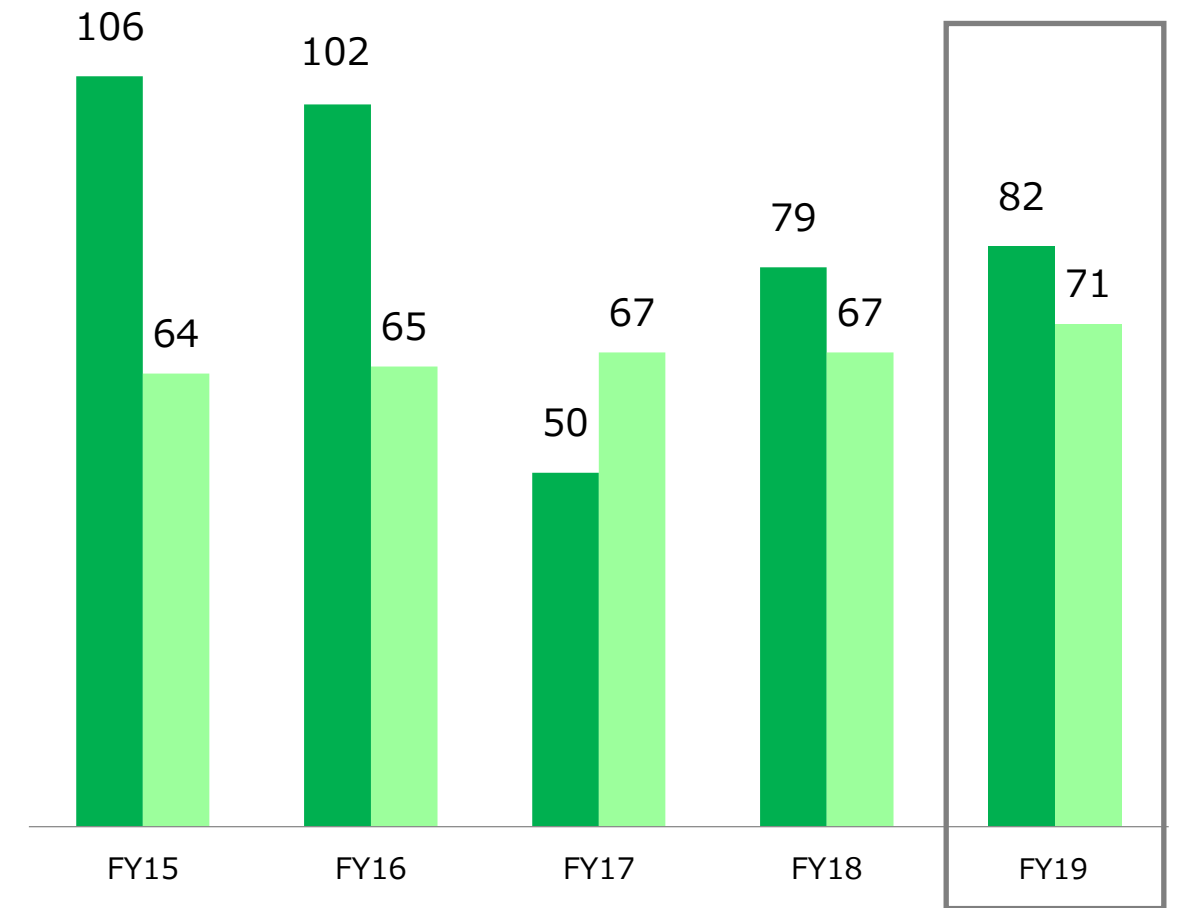


研究開発費／設備投資額・減価償却費

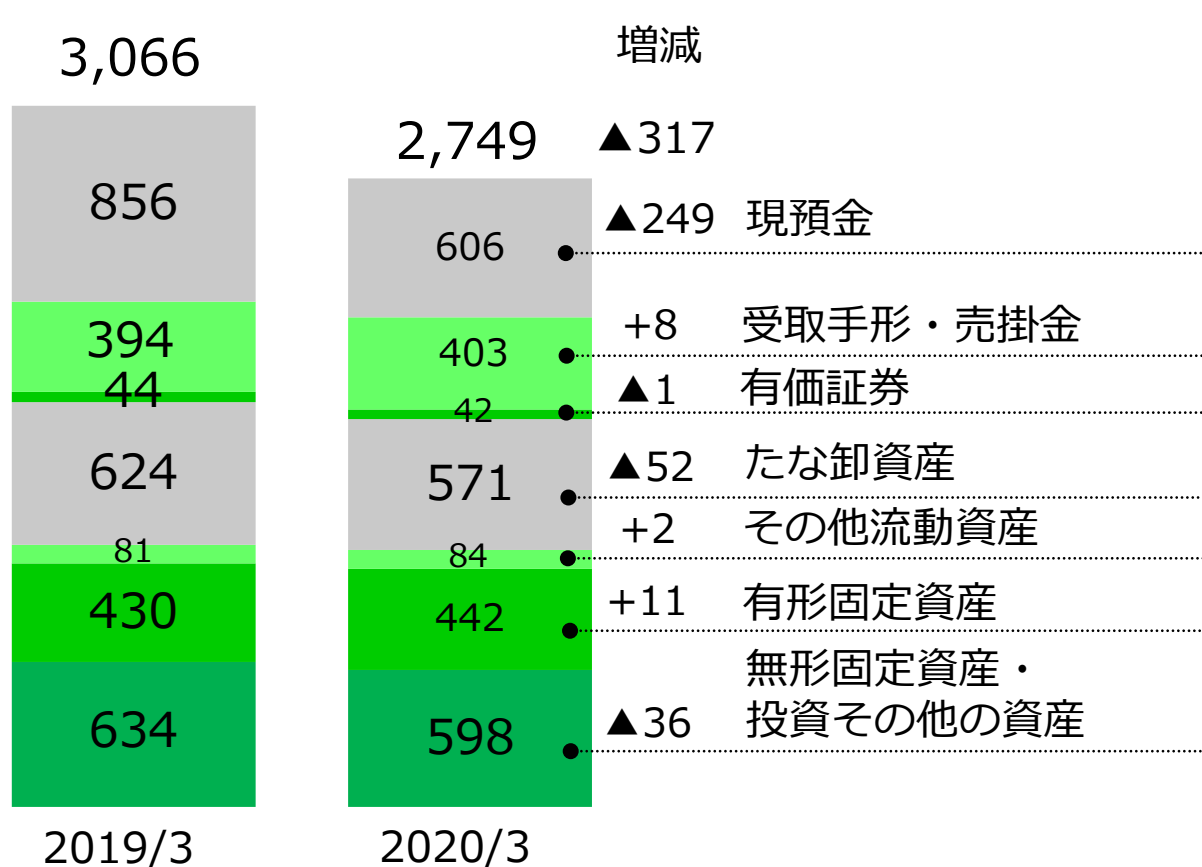
■ 研究開発費 (億円)
 — 売上高研究開発費率(%)



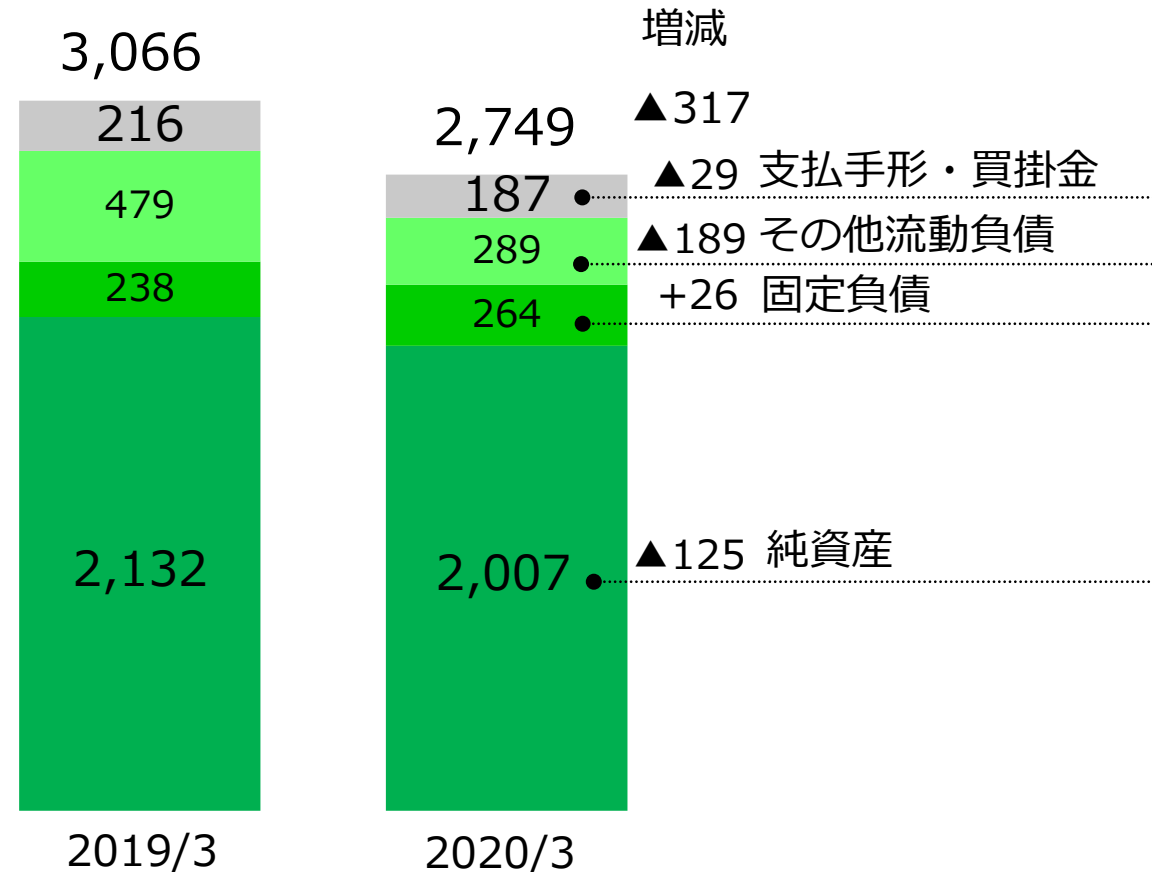
■ 設備投資額 (億円)
 ■ 減価償却費 (億円)



◆ 資産 (億円)



◆ 負債・純資産 (億円)

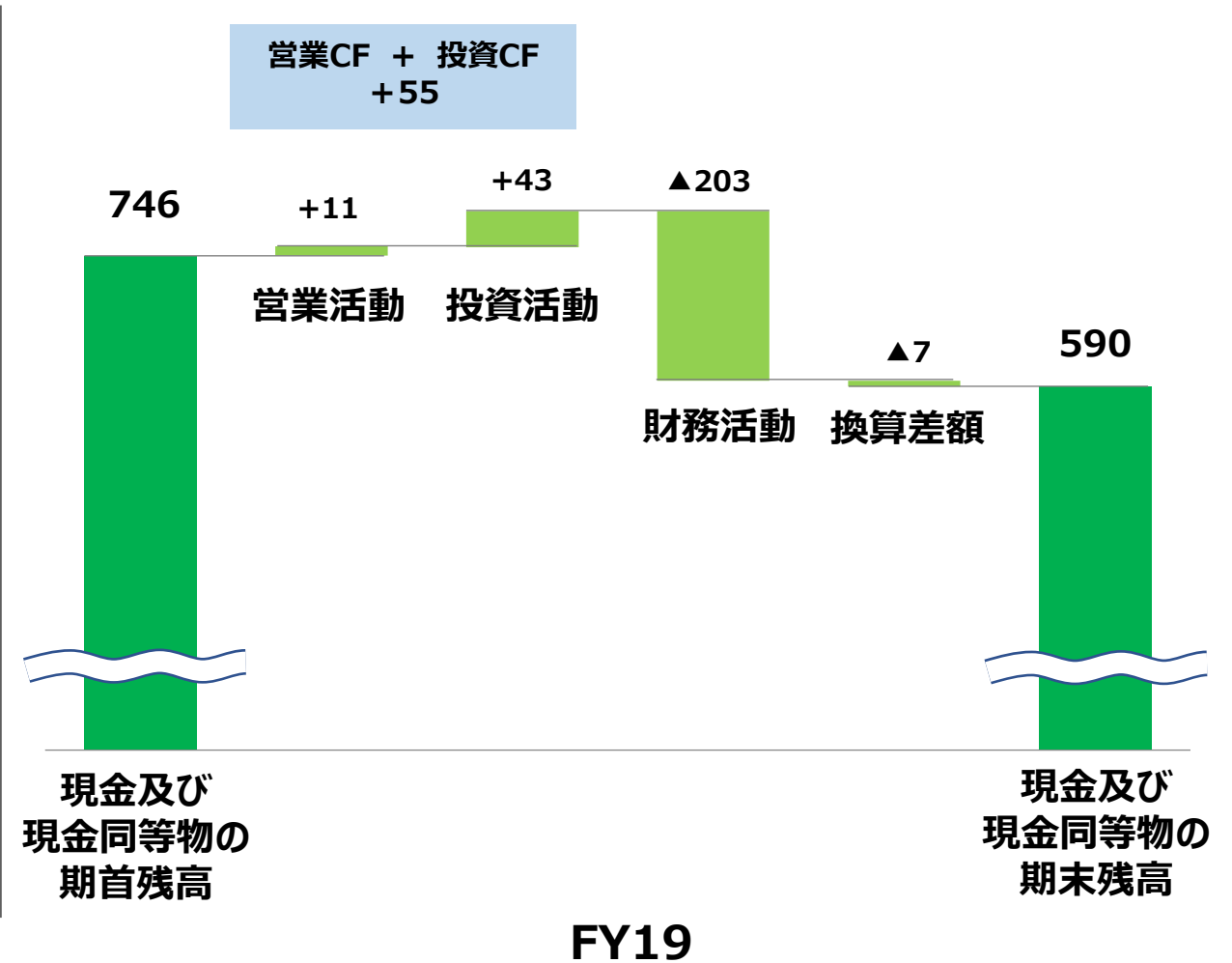
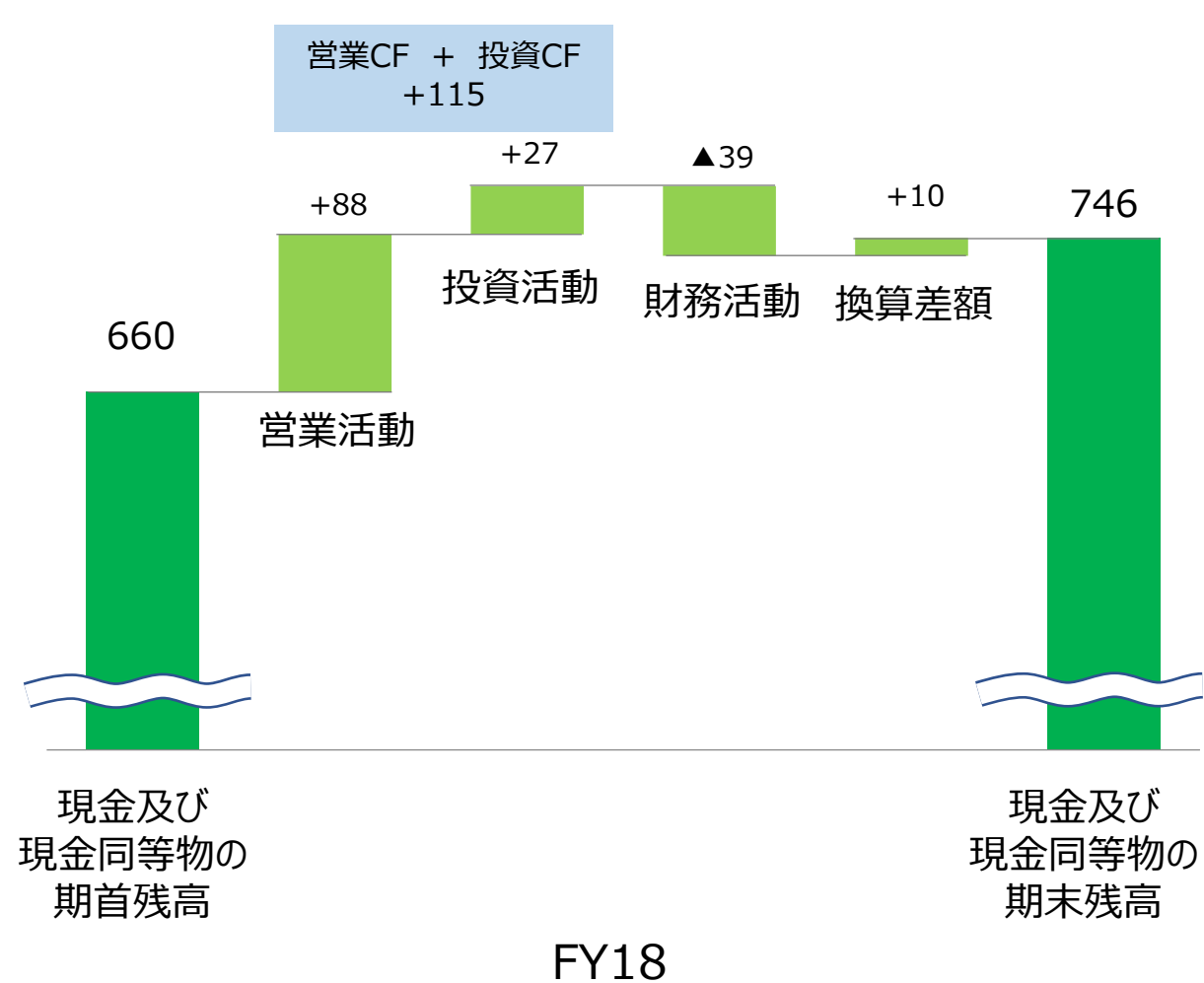


●回転月数 (ヶ月)	2019/3	2020/3
売上債権	3.0	3.0
たな卸資産	4.2	4.5

●自己資本比率 (%)	2019/3	2020/3
	69.5	73.0

キャッシュフロー

単位：億円



AI	Artificial Intelligence	人工知能
BGA	Ball Grid Array	半田ボールを格子状に並べた電極形状をもったパッケージ基板
COF	Chip on Film	フレキシブル基板などのフィルム基板上へICチップを直接実装すること
CoO	Cost of Ownership	導入コストやメンテナンスコストなどを含めた、使用者（オーナー）が負担するコスト
CPU	Central Processing Unite	中央演算処理装置
DI	Direct Imaging	マスク等を使わず、直接描画する露光方式
EUV	Extreme Ultraviolet Radiation	極端紫外放射（極紫外放射）
FPD	Flat Panel Display	フラット・パネル・ディスプレイ
GPU	Graphic Processing Unit	画像を表示するために必要な計算を行う半導体装置
IoT	Internet of Things	モノのインターネット
LaPH	Laser Phosphor	蛍光体レーザー
OA	Office Automation	オフィス内の事務作業の自動化や効率化を図ること
OLED	Organic Light Emitting Diode	有機EL
RGB	Red Green Blue	光の3原色である赤（Red）、緑（Green）、青（Blue）の頭字語
TNO	The Netherlands Organization of Applied Scientific Research	オランダ応用科学研究機構
UV	Ultraviolet	紫外線
5G	5 th Generation	第5世代移動通信システム

USHIO

本資料に関するお問い合わせ先
ウシオ電機（株）経営企画部
(03) 5657-1007
ir@ushio.co.jp
<https://www.ushio.co.jp/jp/>